



エビネ (Calanthe discolor)

低山の林内、林縁に生える多年草。4月末～5月、新葉の展開と同時に、中央に高さ30～50cmの花径を伸ばして多数の花をつける。花の形や色は変異が多く、淡緑色、淡黄白色から濃い褐色まで。林の中の凜とした立ち姿は多くの人を魅了し、人気の高い花である。



ピンク



白



金色



黄色

梅ノ木平国有林では、尾根から移行する凸斜面でよく見かける。ひところ採取圧などで数を減らしたが、最近はまだ回復基調にあるようだ。

環境省のレッドデータブック評価ランクはNT準絶滅危惧に、東京都評価ランクはVU絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



KDDI 高尾山環境保全活動

2021年10月23日(土) 59名

青く澄みきった気持ちの良い快晴の空の下、KDDIグループ社員とその家族32名、本活動と一緒に取り組む東京都立工芸高校の先生・生徒ら16名の計48名が参加し(支援会員11名)、第21回高尾山環境保全活動を実施しました。今回も昨年度までと同様に高尾グリーン倶楽部のスタッフのご指導を受け、明るい森林になる事を願って、ヤマザクラやイタヤカエデなどの落葉広葉樹8種類100本の植樹とアオキなど灌木類の除伐作業を約4時間実施しました。

私は2年前から参加し今回で3回目になりますが、山の尾根伝いは前回までに植樹した苗木が定着するなどすっかり明るく元気な森林になっており、グリーン



倶楽部の皆さまや我々の活動の成果が感じられました。

永く続いた新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が解除され、久々に外で汗をかく活動がうれしく楽しいものか、山で食べたお弁当がこんなにもおいしいものか、と感じた人

は私だけではなかったと思います。また、工芸高校の生徒の若い元気な姿に活力もいただきました。感謝。

来年以降も、当社が高尾山の豊かな自然と生物多様性保全に寄与し、"社会の持続的な成長に貢献する会社"として本活動を継続したいと考えます。(KDDI 社員M)



次々と体験会が行われた

楽しい森林作業体験会

雨にも負けず、コロナ禍にも負けず、小中学校・保育園・企業等の日帰りイベントが次々に実施されました。植樹・除伐・間伐・木工・自然観察など、従来行われてきた体験に加え、新たに草木染め・紙漉きも試み、なかなか好評でした。



10月23、24日 日本山岳会埼玉支部自然保護委員会 17名

センターすぐ上、竹林を刈り払った跡地を広葉樹の林にするために、除伐・道づくりをしてヤマザクラなどを植樹。林道を散策しながら春は花見、秋は紅葉を楽しむことができるように。

八王子ガールスカウト体験記

2022年3月27日(日) 12名

高尾グリーンセンターで森の体験について

【事前学習】

日々の生活で、木で作られているものはどんな物があるか見回してみる。

➡ 割箸、テーブル、机、椅子、柵、家、紙、お椀などなど

原材料となる木は、どこに生えていたか想像してみる。

➡ 考えたこともなかった。

前回の参加者から報告：

日本の国土の2/3は森林なのに、森を守る作業が社会に広がっていない。木材の使われ方や間伐材の有効活用など循環できる仕組みがあるといい。

林業の担い手が少なく、若手が少なく高齢化していることも課題。

気候変動が進み地球が危機になっている。世界では森林伐採のことが問題と言われているが、日本は手入れをされずに放置されていることが問題とのこと。



【当日の体験活動】

・ウワミズザクラの苗木植樹&除伐作業の体験。

【事後の感想】

➡ 人の手で除伐したり植樹したりしていくのは大変な作業だと思った。時間と労力が必要。森の手入れを実際に体験して大変だと痛感した。授業で聞いたが、こんなに大変だとは思っていなかった。

➡ 戦後、復興の中で木材の需要を考え針葉樹の造林が進むが、海外からの安い木材が入ってきて、国産の木材の共有は減少、価格も下落し、山村の過疎化や高齢化もあり林業が低迷した経緯がある。

➡ 若手の担い手をもっと必要だと感じる。社会の中で間伐の重要性

をもっと知ったほうがよいと思う。学校の総合の時間などで扱ったらよいのでは？と思う。

➡ 若者が野外活動する機会が減っていると思うが、このような機会はとても貴重だと感じた。

<今日のヒント>

・SDGsはつながっている。

・木の製品を生活の中で使うよう意識を変え、社会の循環を変える。

10月29日 つくしんぼ保育園 44名

高尾山口から草戸山を経てグリーンセンターに到着。

道々、植物・昆虫を観察しながら元気いっぱい！



11月18日 墨田区立中和小学校5年生 76名

〈ヤマザクラ・カスミザクラ・ヤマグリ等植樹・アオキ等除伐〉
大きなミミズや小さな虫、カニや小魚、自然の中には多くの生き物がいること、作業には仲間との協力が必要なことを学びました。



11月25日 青山学院大学経済学部 17名 〈森林講座・除伐・藍染め〉
林業の課題を経済学の観点から考察する。(その後のゼミでどんな議論がされたのでしょうか?)



11月27日 日野四中青少年育成おやじの会 51名

〈除伐・間伐デモ・木工・川遊び・弓矢・自然観察〉
普段身近に使っているものも自然で作れることを知り自然を大切にしたい気持ちを高めることができた。



2月26～27日 川崎市学童保育オカリナ6年生 30名

〈イロハモミジ・トチノキなど植樹・除伐〉



2月21日 渋谷区立広尾小学校5年生 56名

〈トチノキ・ヤマザクラなど植樹・除伐〉
・初めて植樹して作業の大切さがわかった。





5月15日 成城つくしんぼ卒園くるみ 26名

＜動植物の話をしながら山巡り・丸太切り・木工作業等＞昨年年長組での参加が楽しく、1年生になり保護者と参加。



6月9日 渋谷区立広尾小学校 71名

＜カツラ・オニグルミなど植樹・除伐＞

5年生の社会科正規授業として林業を体験。

4月16～17日 日本山岳会埼玉支部自然保護委員会 12名

＜除伐・地拵え・イロハモミジ植樹・藍染め・紙漉き＞

コウゾの繊維を木槌でたたき作業も体験し、和紙作りの工程の大変さを実感。山巡りをしながら木の芽・野草を収穫し、夜は盛大に天ぷらパーティを楽しんだ。



新人の抱負

上尾 奈津子

この度高尾グリーン倶楽部に入会しました上尾奈津子と申します。C班に所属させていただきチェーンソーを使って除伐や伐倒などを行っています。これからも機会が合えば木工作业やイベントのお手伝いなどにも参加できればと考えております。よろしくお願いします。

岩城 紘乃

今年1月から高尾グリーン倶楽部に参加しはじめ、この度入会しました。職場の植生調査のつながりから出会いをいただきましたが、単純に植物の事だけでなく多くの働きを目にすることができました。豊かな森を作る計画があり、間伐、除伐、刈り払い、道作りなどの一朝一夕には成就しない手間のかかる多くの作業を、木が育つようにゆっくりですが着実に進めています。現在、定点カメラでの動物のモニタリングの手伝いをさせていただいております。この調査によって会の働きが森に生み出している良い成果をご報告できたらと思います。

岡本 明

初めまして。今年度から入会させていただきました岡本です。高尾で暮らして12年程経ちます。山の中にいる時間が好き

で、普段は近くの山を歩いたり走ったりしています。自宅の薪ストーブ用にチェーンソーや斧はたまに使っているのですが、山の中の間伐はまた全然違った面白さがありますね。まだ一人では何もできませんが、時間が合う時は参加させていただき、なかなか体験できない山の時間を楽しみたいと思います。

早川 憲也

自分は、幼少時代に北海道の自然豊かな丘陵地帯で育ちましたので、森の中に居るときが一番リラックス出来ます。自分がボランティアに参加する動機は会社の業務の延長で、自分が環境に貢献出来る事は何かを自分なりに真剣に考え、2013年に高尾に引っ越したのを契機に高尾の森づくりの会に入会し、そのとき事務局長だった龍さんを初めて知って、三宅島PJに参加したことがきっかけで会話が出来るようになりました。

自分が森について勉強している時に色々知識を与えて下さったのが龍さんでした。最近色々学んで行く中で最近一番大事だと感じた始めた事が、私たちが行って来た事を誰が受け継ぐかと言うことです。

せつかく私たちが頑張っても、次世代が育って居なければ受け継がれないと言うことです。

変化の激しい現代社会で浮き沈みすること無い、自然の摂理、生物の本能に従って森を守る行動が出来ると次世代を育てる事がとても重要と考え初めました。

ですから、高尾グリーン倶楽部では親子イベントや、木育活動に参加することで少しでも貢献出来ればと思っています。

木育班活動開始 …山の木を活かして…

高尾グリーン倶楽部倶楽部では、毎月の定例作業で行う森林整備などの活動に加えて、専門班を設けて生態調査や高尾グリーンセンターの施設管理などに取り組んでいます。今年3月には新たに**木育班**を立ち上げ、月に1度定期的に活動することとしました。この班は森林の木々など自然のものを活用していろいろなものを作りそれを使うことを楽しもう、そして高尾グリーンセンターを利用する方々にも楽しんでもらおう、ということを目指しています。

これまでにフクロウの**巣箱作り**、楮（こうぞ）を使った**和紙作り**、竹を使った**トング**の作成、高尾グリーンセンターの利用者と一緒**に藍染め**などを行いました。フクロウの**巣箱**はツリークライミングで5mの高さに設置しました。

高尾山には多くの種類の**野鳥**が生息しているので、いろいろな大きさの**巣箱**をいくつも作り設置することでいろいろな野鳥に**営巣**してもらえたらいいな、などと考えています。そのうちツリーハウスなんかもできちゃうかも？

今後の活動は、**巣箱**や**和紙**づくりの他、スギの葉やクサギの実などを使った**草木染**、**つる篋**や**リース**の作成、**線香**にも挑戦したいです。なんといっても森林整備により出てくる**除伐木**、**間伐材**を活用した**ものづくり**を進めていきたいと考えています。自然のものを使ったものづくりやツリークライミングに挑戦したい方は、ぜひ木育班に参加してください。ものづくりの**アイデア**も**募集中**です。（道明 真理）

盛大に薪割り大会 …冬に備えて燃料を準備…

グリーンセンターの集会室の暖房は**薪ストーブ**、冬には大量の薪が必要になる。これまで薪の確保にはNさんが一人で奮闘していたが、Sさんの「**薪割りしたい人集まれ**」の掛け声に、5月7日（日）女性2名、男性6名の**屈強メンバー**が集まった。午前中は、以前に伐倒した**間伐材**を**30cm**の長さに切りセンターに運び、午後からいよいよ薪割り開始。元気な女性2人が中心になり**丸太の半分**ほどを斧で割り薪にした。薪は棚



に並べ十分乾燥させ、残りの丸太は**第2回薪割り大会**で処理することにした。

水分をたっぷり含んだ丸太は重く、量も多く大変であったが、大量の薪が確保でき、**充実感**を味わうとともに燃料の確保の大変さを実感した。（組澤 勝）



バックヤードウルトラマラソン

2021年11月20日、バックヤードウルトララストサムライスタンディングマラソンが、世界大会の参加資格をかけた行われました。6.7キロのコースを1時間以内に走り、繰り返して最後に一人が残るまで走り続けるという過酷なレースです。支援者**テント村**も賑やかでした。



2022 年度通常総会報告

5月1日、2022年度通常総会が行われ、活動報告、決算報告の後、2022年度の活動計画、収支予算について以下の事項を審議。事務局提案内容を承認して閉会しました。

■ 2022 年度活動計画

1. 森林整備活動

- (1) 天然林施業・刈出し、地拵え・植樹
- (2) 除伐、つる切り、林床整理等
- (3) 間伐
- (4) 作業歩道、林道の整備、補修

2. 普及啓発活動

3. 高尾グリーンセンターの運営と施設管理

- (1) 施設利用の拡充
- (2) 宿泊管理体制
- (3) 施設、備品、什器類の整備更新

4. ラオス国での国際協力活動

5. 会の運営

- (1) 会員

(2) 役員

- (3) 森林所有者との情報共有
- (4) 国土緑化推進機構等の助成金
- (5) 安全作業技術の向上
- (6) 財政基盤の充実にに向けた取り組み
- (7) 規程類の整備
- (8) 活動日程

■ 2022 年度予算

1. 一般会計（森林整備・教育）
2. 特別会計（グリーンセンター運営）
3. 特別会計（ラオスプロジェクト）
4. 特別会計（JICA 草の根事業）



カメラがとらえた動物たち（2報）



フクロウの巣箱



ムササビ



フクロウ



イノシシ



ニホンジカ

センター尾根第1ピークのコナラの大木に、4月17日、繁殖用のフクロウの巣箱を取り付けました。するとほどなく、ムササビが出現。コナラの幹を登っていく姿が2度にわたって確認されました。今まで姿を見せなかったムササビが、やはりこの森にもいたのです。肝心のフクロウは、巣の近くの水場でエサ取りと水浴びにたびたび現れます。巣を使っているのかまだ確認できていません。今後継続して調べたいと思います。

伝染病で数を減らしていたイノシシも姿を見せましたし、ニホンジカは、オス、メス共に出現頻度が増えています。

鳥類は、ヤマドリ、キジバト、ノスリ、クチブトガラスなどの大型のものから、ジョウビタキ、ルリビタキなど多彩な顔触れがカメラで確認できますが、そのうちいくつかを紹介します。（龍 久仁人）



ヤマドリ



キジバト



ジョウビタキ



ルリビタキ



ノスリ



クチブトガラス



カクズ



トラツグミ

腐生植物見つけた！



キバナノショウキラン



ツチアケビ

6月19日(日)木育班作業日に、高尾グリーンセンター周辺の狭い範囲の森林で、キバナノショウキラン・ツチアケビ・キヨスミウツボが相次いで確認されました。自らは光合成を行わず、菌類から養分を取奪して生育する珍しい植物たちで、菌従属栄養植物(腐生植物)と呼ばれています。これを目当てに、撮影に訪れる植物愛好家も増えています。(龍)



キヨスミウツボ



高尾グリーンセンター利用案内



自然とのふれあいや学びの場に適した環境です。グループ活動や各種研修のための施設としてご利用ください。10名以上で受け付け、すべて貸し切り利用になります。

ご希望により高尾グリーン倶楽部のメンバーが自然体験や間伐作業体験などのお世話をします。



■利用料金

- ・宿泊利用料金：
大人 3,300 円、子ども 2,300 円
- ・日帰り利用料金：
大人 1,000 円、子ども 500 円

■施設概要

- ・宿泊室4部屋(和2室、洋2室)定員23名、集会室40人収容
- ・調理室、浴室2、野外バーベキュー施設、駐車場10台
- ・調理用の什器類、バーベキュー用品等は一式そろっており、自由にお使いいただけますが、食材はすべて持ち込みです。
- ・上水道は、2017年に新しく掘削されたおいしい井戸水です。
- ・森林作業体験は原則有料(インストラクター1人当たり4,000円)ですが、青少年等は減免措置あり、ご相談ください。
- ・詳しくはホームページをご参照ください。

<http://takao-green-club.pepper.jp/>

高尾グリーン倶楽部 森林ボランティア会員募集中!!!



高尾グリーン倶楽部は、南高尾山域で森づくり活動を行っているボランティア団体です。

“多様で豊かな森の再生”を目指して植樹や間伐などの森林整備活動を行っています。

また、小中高生徒や学生、一般市民の皆様、グリーンセンターの利用者や市民の皆様を対象に作業体験を支援する活動を行っています。あなたも活動に参加し、私たちと一緒に汗を流しませんか。

活動日：毎月第1日曜日 9:00～15:00 集合時間：9:00グリーンセンター集合

参加申し込み：Email ryu-kun@jcom.zaq.ne.jp Tel 090-4373-1555 龍 久仁人 宛

編集後記

第5号の発行後高尾グリーン倶楽部では、次々と実施される森林体験会の準備と当日の支援とで忙しくも楽しい活動が続きました。第6号は体験会の様子を盛りだくさん掲載しました。多くの方に森林の大切さを理解していただき、作業に参加していただけたら幸いです。

- ・背伸びして光浴びているホトケノザ キャベツ畑の緑の彩り
 - ・道の端のヨゴレネコノメ出あうたび あなた綺麗よとそっとささやく
- 編集委員 千谷

